

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スタンドバイミーJr		
○保護者評価実施期間	2026年9月3日 ～ 2026年9月10日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2026年8月21日 ～ 2026年8月31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年8月20日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○清潔で柔軟に配慮された療育環境 →2部屋のスペース活用や個別スペースの確保、日々の清掃・消毒が徹底されており、安全で清潔な空間が作られています。 ○外部機関や地域インクルージョンの連携強化 →保育所・幼稚園・小学校等の関係機関や地域社会とのさらなる情報共有・相互理解を進め、移行・併行支援の質を高めること	○構造化された環境づくりと視覚的支援 →絵カード等を用いたボードで1日の流れを示し、子どもに見通しを持たせる環境を工夫しています。	○個人のニーズに応じた専門研修のさらなる活用 →外部研修への参加機会を継続し、受講後の報告会などを通して職員全体の資質向上を図ること
2	○手厚く緊密な保護者コミュニケーション →連絡アプリ（HUG）やSNSの活用、面談等を通じ、日々の様子や成長をこまめに共有し、相談しやすい関係を築いています。	○チームで行う柔軟な活動プログラムの立案 →同じ活動でも難易度や子どもの興味に合わせて調整し、プログラムが固定化しないよう毎日話し合っていて進めています。	○アセスメントと個別支援計画の運動強化 →客観的ツールと日々の行動観察を組み合わせ、より具体的かつ実効性の高い支援計画（本人・家族・移行支援等）を設定すること
3	○安全管理と危機管理意識の高さ →毎月の避難訓練やBCP訓練に加え、週1回のヒヤリハット読み合わせや送迎時の検討会など、再発防止策を組織的に実施しています。	○朝夕・日々の打合せによる情報共有の徹底 →支援開始前の役割分担の確認や、終了後の振り返り・気付きの共有を毎日欠かさず行っています。	○地域交流（商店街巡り等）の定例化・拡大 →月1回の地域交流（買い物、公園遊び等）をベースに、さらに地域社会との接点を増やしていくこと

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○保護者同士の交流（父母の会等）や、ペアレント・トレーニング等の家族向け学習・研修機会の提供が不十分な点	○個別の相談対応（面談やアプリ連絡）は手厚く行えている反面、保護者を集めたイベントや講座を企画・運営するノウハウや時間の余裕が不足していること。	○アンケートで保護者のニーズを把握し、まずは短時間の座談会やオンライン交流会など参加ハードルの低い形から導入する。 外部講習の動画共有など負担の少ない講座から始める工夫をする
2	○小学校や保育園・幼稚園、相談支援事業所など、地域の関係機関との定期的な情報共有や相互理解の体制がまだ限定的である点。	○事業所内での支援体制を整えることに注力していたため、外部機関との連絡窓口や定期的なカンファレンスの場を設けるきっかけが少なかったこと。	○就学や移行の時期に合わせた「引き継ぎシート」のフォーマット化を進める。 保護者の同意のもと、サービス担当者会議や学校訪問へ積極的に参画し、短い時間でも外部とつながるフローを作る工夫をする。
3			